

富山湾周辺地域の漁業用具の基礎的研究

和船建造技術を後世に伝える会

はじめに

当会は、廃絶が危惧される木造和船とその建造技術の記録・収集、及び調査・研究を通して和船とその建造技術、また和船にまつわる事象（歴史・習俗・漁撈・舟運等）について調査・研究し、後世に伝承していくことを目的に活動している。これまで、『船をつくる、つたえる』、『氷見の和船』、『とやまの和船』の3冊の調査報告書を刊行し、富山県でかつて用いられた和船についての調査成果の公開に努めてきた。

平成23年度から25年度の3か年は、富山湾周辺地域の漁業用具の基礎的研究ということで、和船のみに限定せず、広く富山湾沿岸地域で使用された漁業関係の資料（網漁関係用具、釣漁関係用具、磯漁関係用具、加工用具、信仰用具、操船関係用具、船舶関係用具、造船用具等）の基礎調査を目的とした。

事業の最終年度である平成25年度には、補足調査を実施した上で、当会4冊目の調査報告書となる『富山湾の漁撈用具 和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅳ』を刊行し、頒布を行った。

補足調査の概要

今年度は、継続して実施してきた当会所蔵の「富山湾の漁撈用具」の基礎整理作業を完了し、リストの作成を行った。これらの漁撈用具は、平成5年度から同10年度にかけて富山県沿岸部を対象として実施された悉皆調査で収集された資料である。資料の収集は、朝日町・入善町・黒部市・魚津市・滑川市・富山市・新湊市（現、射水市）、氷見市の8市町で行われており、総数442点を数える。平成23年度より資料の整理作業を進めてきたが、今年度は収集当事に作成された一覧表を加筆訂正し、個人情報等一部の内容を割愛したうえで調査報告書への掲載を行った。

実地調査としては、平成24年度に確認した新湊漁港所在のテント型動力船の記録作業を実施した。これは、木造船にFRP（繊維強化プラスチック）を張り込んだもので、昭和50年代頃まで定置網漁に使用されていたものである。富山湾では無動力のテントが昭和30年代末頃まで、昭和40年代以降はテントにエンジンを積んだテント型動力船が漁を担った。だが、それらはFRP製の船が全盛となったことで廃棄され、ほとんど現存していない。今回確認した新湊漁港のテント型動力船は貴重な現存例といえる。ただ全長が約15mと大型であり、保存していくことは難しい。そのため今回は現地での実測作業と写真撮影により、記録を行った。作成した実測図は調査報告書に掲載した。

なお、調査報告書には、平成23年度、平成24年度に当会が収集した氷見型テンマ1艘と能登外浦型テンマ1艘の実測図も掲載している。これらの資料の実測作業も今年度実施した。

資料の収集としては、氷見市上庄川河口で、近隣の櫓大工旧蔵とみられるカジ（舵）用に粗木取りしたカシ材を収集したほか、神通川で用いられたササブネの実地調査および収集を実施した。

『富山湾の漁撈用具 和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅳ』の構成について

本書は、A4判 43 ページで、2 章より構成している。

第1章「富山湾の漁撈用具」では、現在、和船建造技術を後世に伝える会が所蔵している漁撈用具の一覧表を掲載した。

これらの資料は、先述のとおり朝日町・入善町・黒部市・魚津市・滑川市・富山市・新湊市（現、射水市）、氷見市の8市町で収集された資料で、総数は442点である。和船3艘をはじめ、網漁用具、釣漁用具、加工用具など、その内容は多岐に渡る。これらの資料は、平成5年度から同10年度に実施された調査に伴い平成8年以降に収集され、その後平成18年度に当会に移管された。調査報告書では、市町別に編集した一覧表を掲載し、あわせて一部資料を写真で紹介した。

第2章「とやまの和船 補遺」では、平成22年度の調査報告書『とやまの和船』刊行後に当会が収集あるいは把握をした和船の実測図を掲載したほか、旧富山県水産講習所所蔵の新発見の船図面2点を掲載した。

報告書の頒布について

今回刊行した『富山湾の漁撈用具 和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅳ』は、富山県内の図書館や市内の小中学校および、県内外の博物館、資料館などの研究機関・教育機関等に頒布し、広く一般の利用に供している。

【報告書についての問い合わせ先】

〒933-0016 富山県氷見市本町4番9号 氷見市立博物館気付

和船建造技術を後世に伝える会（TEL0766-74-8233 Fax0766-74-5520）

富山湾の漁撈用具

和船建造技術を後世に伝える会調査報告書Ⅳ



2014年3月

和船建造技術を後世に伝える会

目 次

第1章 富山湾の漁撈用具	1
1. 「日本海博物館(仮称)収集資料」について	1
2. 富山湾の漁撈用具一覧表について	1
3. 富山湾の漁撈用具	3
(1) 朝日町	3
(2) 入善町	9
(3) 黒部市	11
(4) 魚津市	12
(5) 滑川市	14
(6) 富山市	16
(7) 新湊市(現、射水市)	17
(8) 氷見市	17
(9) 採集地不明	18
第2章 とやまの和船 補遺	20
はじめに	20
1. カンコ	20
2. テンマ	23
3. テント	28
4. 新潟県の二枚棚構造船	36
5. 旧富山県立海洋高等学校所蔵の船図面	38
おわりに	41
参考・引用文献	42
和船建造技術を後世に伝える会 会員名簿	43
協力者・協力機関一覧	43
あとがき	

表 目 次

漁撈用具分類案	2
第1表 朝日町の漁撈用具	3
第2表 入善町の漁撈用具	9
第3表 黒部市の漁撈用具	11
第4表 魚津市の漁撈用具	12
第5表 滑川市の漁撈用具	14
第6表 富山市の漁撈用具	16
第7表 新湊市の漁撈用具	17
第8表 氷見市の漁撈用具	17
第9表 採集地不明の漁撈用具	18

写 真 目 次

写真1 氷見のテント	31
写真2 テント型動力船	34
写真3 聖籠町の二枚棚構造船	36

図 目 次

第1図 カンコ(1)	21
第2図 カンコ(2)	22
第3図 テンマ(1)	25
第4図 テンマ(2)	26
第5図 テンマ(3)	27
第6図 テント	30
第7図 テント型動力船	32
第8図 射水郡新湊町漁船	35
第9図 石油発動機漁船ノ圖	35
第10図 聖籠町の二枚棚構造船	37
第11図 両宮殿下御観覧船設計図	39
第12図 宮崎村曳船母船設計	39
第13図 滑川町手繰網船設備図	40
第14図 滑川町釣船設備図	40
第15図 宮崎村釣船設備図	40
第16図 船體甲板平面横截面及線従截面圖	41